

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

修士課程

○到達目標

「知識・理解」

- (1)言語、音楽情報、環境音、視覚情報、視聴覚文化などの分野について体系的に理解し、特定の分野に焦点を当てて、その専門的内容を的確に説明できる。
- (2)音情報源の機能や特性を体系的に学び、情報伝達のを物理的に解析・制御し、人間にとって最適な音響情報伝達を実現するための専門的技術についての的確に説明できる。
- (3)画像をはじめ視覚情報や視覚メディアに対する様々な処理や知的利用に関して体系的に理解し、特定の課題に焦点を当てた研究の知識を有して、わかりやすく説明できる。
- (4)ホール・劇場等に関わる芸術、マネジメント、工学の各分野の内容について体系的に理解し、その専門的内容や関連性を的確に説明できる。

「専門的能力」

- (1)視聴覚情報を融合する手段や方策などを研究活動に活用できる。
- (2)音響情報を効果的に伝達し、活用する手段や方策などを研究活動に活用できる。
- (3)専門分野の十分な理解と統合的把握能力を得ると共に、数理的な解析とコンピュータによる数値計算の能力を有し、画像情報伝達に関する諸問題の研究に活用できる。
- (4)芸術、マネジメント、工学の各分野の内容を融合する手段や有機的な連携方策などを研究活動に活用できる。

「汎用的能力」

- (1)コミュニケーション・スキルと自己表現能力を鍛え、他の領域と積極的に交流できる視点を養う。
- (2)より幅広い科学的手法と論理的思考力および実践能力を身につけると共に、科学・技術と人間・社会とのかかわりの問題を理解し考慮することができる。

「態度・志向性」

- (1)視聴覚文化、視聴覚コミュニケーションのあり方についての課題解決に積極的に挑戦する態度を持つ。
- (2)音を用いた各種情報伝達についての課題解決に積極的に挑戦する態度を持つ。
- (3)画像情報分野における問題を自律的に見出し解決しようとする積極性を持つ。その過程では、社会を視野に入れた多様な視点及び他者との協働を重視する柔軟性を備える。
- (4)ホール・劇場における芸術・工学の知識に基づいた新しいマネジメントについての課題解決に積極的に挑戦する態度を持つ。

博士後期課程

○到達目標

「知識・理解」

- (1)言語、音楽情報、環境音、視覚情報、視聴覚文化などの分野について体系的に理解し、特定の分野に焦点を当てて、その高度な専門的内容を的確に説明できる。
- (2)音情報源の機能や特性を体系的に学び、情報伝達のを物理的に解析・制御し、人間にと

って最適な音響情報伝達を実現するための高度な専門的技術についての的確に説明できる。
(3)画像をはじめ視覚情報や視覚メディアに対する様々な処理や知的利用に関して体系的に深く理解し、特定の課題に関する優れた研究成果を有して、わかりやすく説明できる。

「専門的能力」

- (1)視聴覚情報を融合する手段や方策などを研究活動に高度に活用できる。
- (2)音響情報を効果的に伝達し、活用する手段や方策などを研究活動に高度に活用できる。
- (3)専門分野の高度な理解と統合的把握能力を得ると共に、数理的な解析とコンピュータによる数値計算の高い能力を有し、画像情報伝達に関する諸問題の高度な研究に活用できる。

「汎用的能力」

- (1)外国語を含むコミュニケーション・スキルと自己表現能力を鍛え、他の領域と国際レベルで積極的に交流できる視点を養う。
- (2)より幅広い高度な科学的手法と論理的思考力および実践能力を身につけると共に、科学・技術と人間・社会とのかかわりの問題を深く理解し考慮することができる。

「態度・志向性」

- (1)視聴覚文化、視聴覚コミュニケーションのあり方についての課題解決に積極的に挑戦する態度を持ち、社会貢献に活かすことを志向する。
- (2)音を用いた各種情報伝達についての課題解決に積極的に挑戦する態度を持ち、社会貢献に活かすことを志向する。
- (3)画像情報分野における問題を自律的に見出し解決しようとする高い積極性を持つ。その過程では、社会を視野に入れた多様な視点及び他者との協働を重視する柔軟性を備える。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

●教育プログラム

◇教育課程の履修方法

ア 履修方法

【修士課程（30単位以上）】

①コース内共通科目：12単位以上

コミュニケーションデザイン科学コースのコース内共通科目として、「コミュニケーションデザイン科学特別演習Ⅰ及びⅡ」（各4単位）を設定しており、必修です。これらの科目は主として研究指導を目的としたものです。また、学部で学んだ教育内容が異なる各種学生に対して、本コースの基礎となる内容を理解させる目的で、「視聴覚情報融合特論演習」、「音響情報伝達特論演習」、「画像情報伝達特論演習」を開設します。

②講座内科目：6単位以上

学生各自の所属講座で開設される授業科目を6単位以上選択履修すること。いわゆる課題解決型の演習科目であり、大きな課題の中で受講学生自らが実行すべき具体的課題を設定、適宜教員の指導を受けながら遂行し、最終的には構成員へ成果をプレゼンテーションするという形式の演習科目です。

③他講座科目：4単位以上

学生各自の所属コースにおいて所属講座以外の講座で開設される授業科目から4単位以上選択履修する。

④自由科目：8単位以上

芸術工学専攻修士課程の授業科目（各コースの特別演習Ⅰ及びⅡを除く。）から選択履修する。ただし、研究指導教員が必要と認める場合には、芸術工学府他専攻、他学府及び芸術工学部の授業科目から4単位まで選択履修することができます。

【博士後期課程（10）単位以上】

①修士課程との共通開設科目：4単位

芸術工学専攻の修士課程及び博士後期課程の共通科目として設定されている科目（各コースの特別演習Ⅰ及びⅡを除く科目）から、4単位以上を修得する。なお、修士課程で単位を修得した科目を再度履修することは原則認めません。

②博士後期課程独自開設科目：6単位以上

学生が指導を受ける教員等により、研究指導を主な目的とする当該科目を6単位以上選択履修する。

イ 教育課程等の概要

◇研究指導体制

- ①入学時に学生毎に指導教員を定め、必要であれば関連分野から副指導教員を定めます。
- ②修士論文の研究テーマは、入学前に確認したことを中心に、指導教員及び副指導教員の指導のもとに決定します。
- ③指導教員及び副指導教員は、研究テーマが一連の研究手順に沿って進行していくように指導し、論文作成を指導します。
- ④指導教員及び副指導教員は、その学生の理解度、進行度等を学期ごとに評価しながら指導するものとします。1年次終了時点（博士後期課程は1年次及び2年次終了時点）で、研究の進捗状況についての中間報告を義務付けます。

◇修了要件、成績評価基準・評価方法等

【修士課程】

ア 修了要件

課程に2年以上在学して、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は作品を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要です。

イ 成績評価基準・評価方法

授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。

【博士後期課程】

ア 修了要件

課程に3年以上在学して、10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

イ 成績評価基準・評価方法

授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

視聴覚情報が時空の制約を超えて大量かつ高速に流通し生活に不可欠な要素となった高度情報通信社会の中で、今、心を通い合わせるコミュニケーションのあり方が強く求められています。本コースはそのような視聴覚環境の創出を目標として、科学技術能力と芸術的感性を備えた人材を育成します。

視聴覚情報融合講座では、言語、音楽、環境音、画像などを体系的に学び、視聴覚情報を融合する手段、その具現化のための方策、視聴覚文化のあり方について教育・研究を行います。

音響情報伝達講座では、音情報源の機能や特性を体系的に学び、情報伝達の間を物理的に解析・制御し、人間にとって最適な音響情報伝達を実現するための技術について教育・研究を行います。

画像情報伝達講座では、画像情報の処理・解析・認識、コンピュータビジョン、画像生成アルゴリズムなど、画像工学の先端的基礎理論および社会への応用技術について教育・研究を行います。

ホールマネジメントエンジニアリング講座では、劇場・ホール等において、工学的知識を基盤として、文化芸術振興の意義を理解しつつマネジメントを行う手法に関して、実践的な教育・研究を行います。なお、本講座の教育課程は修士課程のみに設置されています。

このために本コースでは、音響、画像を、単に情報を伝えるだけの信号としてではなく有効なコミュニケーションのメディアと認識し、その可能性を探ることに興味のある学生を広く募集します。